

### 第3回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

#### 1 開催日時

平成27年10月9日（金） 午後1時30分～午後3時30分

#### 2 会場

花巻市役所本庁舎3階 委員会室

#### 3 出席者

花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員14名：中村良則座長、佐々木一夫委員、似内英悦委員、小原宏委員、宮澤啓祐委員（代理出席）、藤沼弘文委員、佐々木博委員、木村稔委員、小原和雄委員、佐々木安浩委員、漆沢俊明委員、谷藤和彦委員、村上弘明委員、菊池文彦委員

市側：八重樫総合政策部長

事務局：秘書政策課企画調整係（伊藤課長、似内課長補佐、寺林企画調整係長ほか）

#### 4 会議内容

##### 【1 開会】

##### 【2 挨拶】

○中村座長より挨拶。

##### 【3 説明・意見交換】

○説明

（伊藤課長） 始めに配布資料により、（仮称）花巻市人口ビジョン（案）について説明。

○意見交換

（藤沼弘文委員） 人口ビジョンについては、うまく考えられていると思う。問題は、大迫と東和の人口予測がうんと減ることだと思う。仕事柄、大迫や東和の奥の方に行くと空き家が多い。若者が流出し、残った高齢者は老人ホームへ移ることになれば、空き家が増えて荒廃してしまう。そんな状況に手を打とうとしてもなかなか大変だと思う。

大迫や東和でも、まちなかでワインやチーズをつくるなどの仕事をつくり、町外の人はキャンプを楽しむために来てもらうような流れを作ることではないか。

14歳から20歳に花巻市を出ていくが、帰ってこないのは就職の場がないからである。企業の誘致を促進したり、地場産業の力をつけられるようにしなければならない。出て行った子どもたちに帰ってきてほしいが、都市部との給料の面もギャップを埋めなければなら

ない。ただ人を増やそうと言ってもだめだろう。現実を見ながら討議していく必要がある。

(佐々木一夫委員) 地域で一生懸命生活している人がいることを見逃されることは困る。数字だけで人口問題を考えてもらっては困る。地域の特性や文化をを生かすことが大事。また、誘致企業があれば、人口流失を抑制できるのではないか。ワインや観光でも人口流出は止められていない。やはり仕事的大事だと思う。

(似内英悦委員) 雇用はもちろん必要だが、29歳から30歳代前半の転入を考えたときに、子育てや教育が大事になってくる。そのときに学校はどうなっているか。学校への移動が1時間も2時間もかかるようだと、転入しようとする親は二の足を踏んでしまう。

(小原宏委員) 合計特殊出生率 2.1 という努力目標はいいと思う。現状は人口の維持はできていないが、どのように減らさないようにするか。そのための方法を広く聞いてほしい。

(宮澤啓祐委員代理佐藤良介氏) 雇用の場の確保や教育面の充実が大事だが、未婚率が高いといった面もある。結婚への意識を変えることも大事になってくると思う。

(佐々木博委員) 現状では、人口減少はあらがえないものとする。交流人口を増やすことが大事。規模が小さいからダメではない。人が少なくなると不幸とは言えないと思う。

(木村稔委員) 県も人口ビジョンの算定に当たっては、合計特殊出生率は同じ水準でやっている。市だけでなく、国と県、皆さんの協力をいただいで進めていかなければならない。数値については適切だと思う。

(小原和雄委員) ここ3年くらいの数字だが、市内では特に、花巻農業、花北青雲、大迫高校から200人くらいが就職しており、県内には150人から160人が残る。高卒は地元に残っている。ただ、花北青雲では学科として工業があるが、生産系の仕事は地元にあるが、研究や設計、開発といった部門となると仕事がなく都会に出ていく。そういった業種が地元あればもっと残れると思う。

進学の場合は、地元に進学し、そのまま残るケースもあるが、県外に出ていくと戻ってくる受け皿がないのが現状である。

(佐々木安浩委員) 人口規模をどこに設定すればいいかということだと思うが、2060年の推計値となる56,000人の花巻市と73,000人の花巻市で何が違うのか。10万人の社会が半分になると困るということなのか。目指す姿を明らかにして数値を示すほうがわかりやすいと感じた。

(漆沢俊明委員) 数値についてはいいと思う。推計では石鳥谷や東和の人口は将来的に半分に、大迫については三分の一になるというもの。過去に大迫で働いたことがあるが、大迫は地価が高く、次男・三男は鉄道沿線に家を建てる傾向にあった。地価が高いと地元民は恩恵をうけない。さらに大迫は交通の便が悪く、バスの移動にしても本数が少ない。一方で交流人口は多い地域である。早池峰山登山は人気があるが、そうした人々が大迫のまちなかにはよらない。まちによっていくスキームがあれば仕事も増えるのではないか。下山してから風呂に入って土産を買って帰るのか登山客のパターンであり、そこについていくもの有効だと思う。

(谷藤和彦委員) 人口展望はいいと思う。私は新興製作所に勤務しているが、地方はまだまだ厳しい状況にある。昔は花巻市内で部品を買っていたが、いまは競争力を高めるために市外や県外に発注をかけている状況である。

(村上弘明委員) 人口ビジョンについては専門外ではあるが、なんでこの目標値なのかという疑問がある。減らさない・減らせない理由があつての目標だと思うので異論はない。

(菊池文彦委員) 特殊出生率の2.1については異論がない。人口が73,000人に落ちると学校の統廃合が進み、現在のコミュニティーがなくなって過疎がすすむ。地域の拠点を残して地域づくりをすすめるような施策を示してほしいと感じる。

(中村良則座長) ここまでの各委員からの発言聞いてくると、今回の人口ビジョン案は妥当な数字であるということだと思う。事務局として、総合戦略の説明に移っていただくことでよろしいか。

(伊藤課長) (総合戦略の説明に移る前に、花巻市人口ビジョン案のp30とp42を比較しながら、このままの状況で何もせずに推移していった場合の人口推計と花巻市の目指す将来展望人口における年齢構成の差を説明。なにもしない場合、2060年には、現在の年齢構成に比べると15歳から64歳の生産年齢人口割合が減りこどもの割合も減るが、目指す将来展望人口では、生産年齢人口割合も子供の割合も保たれることを補足)

(中村良則座長) 次に総合戦略に移ります。事務局より総合戦略案の説明をお願いします。

#### ○説明

(伊藤課長) 始めに配布資料により、(仮称)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について説明。

○意見交換

(佐々木一夫委員) これと同じものが地域協議会でも説明されるのか。

(事務局) はい。

(佐々木一夫委員) 大迫は就業の場が必要である。林業における就業についても、大迫森林組合から花巻森林組合にかわったところ、組織は大きくなったが、製材の場所が変わって内川目の工場から木材が減り、林業意欲というものが見えづらくなった。組織を大きくするだけでなく、地域間の調整をしっかりとしないといけない。

(似内英悦委員) 話がすこしそれるかもしれないが TPP についても言及したい。石鳥谷地域における 1 次産業のウェイトは大きい。新しいの世の中の動きへの対応も加味していかなければならない。

(小原宏委員) それぞれの目指すところを実現できるように、プロジェクトチームなどで具体的な取り組みを推進してほしい。

(中村座長) この点について事務局から説明はありますか。

(伊藤課長) 取り組む事業は構想としてあるので、より具体的に検討していきたい。

(宮澤啓祐委員代理佐藤良介氏) それぞれの産業を強化すると同時に連携を図ることが大事。また、教育に関しても、地元に着がもてるような人材育成をお願いしたい。

(藤沼弘文委員) 総合戦略はこのままでいいと思う。4つの重点項目があるが、その中でも教育に重点をおくようなことがあってもいいのではないか。花巻市の子どもたちを大事にしなければいけない。学費をすべて免除にするとか、市として重点的に投資していくようなことがあってもいいと思う。観光、商業、工業などそれぞれの産業でもそれぞれで頑張っていくことはもちろんだが。

(佐々木博委員) 今週末には土沢でアート&クラフトマーケットが開催されるが、1日1万人が集まるようなイベントであり、みんな一生懸命にやっている。こうしたイベントに市でもっと応援してほしいと思う。交流人口が大事。町外・県外から人が来てくれるようなイベントや施設にお金を投資してほしい。一極集中となっても効果はあると思う。

(木村稔委員) 雇用の場が必要である。有効求人倍率は1.2だが、製造業は求人を出しても集まらないと聞いている。高校を卒業して地元に残る人が8割というのは県内でトップである。だが、女性であれば総務であるとかといった就業希望のある仕事が地元でない。IT や設計といった分野を含めて、企業誘致も頑張っているが、製造や配送といった業種や地場産業の良さも分かってほしいと感じている。首都圏との生活の違いなどを説明しながら

ら、小・中・高校で花巻の良さ、市内企業の良さを分かってもらわなければならないと思う。

また、UIJ ターンで奥様を連れてくるときに、知らない土地への不安はあると思う。ワンストップで空き家とか就業の場とか、子育てに関する事などを相談に乗ってくれるところがあるといいと思う。

(藤沼弘文委員) ジョブカフェでも相談に乗っているようだ。

(木村稔委員) ジョブカフェは職業の部分が中心となるが、住まいや子育ての悩みも含めて市役所でワンストップで相談に乗れるような場所があれば、より定着するのではないか。

(中村良則座長) この点、事務局からなにかありますか。

(事務局) 首都圏との生活の違いを可視化するような取り組みをやっていききたいと考えている。また、ワンストップの部分では、今年から秘書政策課に定住推進係を設けて、空き家バンクなどの取り組みを行っている。まだまだワンストップとはいかないが、そういった取り組みを進めていきたい。

(中村良則座長) そういった場があることを、それを市民皆が分かっていることが大事だろうと思う。

(小原和雄委員) 継続が大事だと思う。花北青雲の2年生は商工会議所の協力をいただいて、市内企業をバスで回らせてもらっている。1年生は、県南広域圏の企業メッセに出ている。市内企業の状況が見える機会がもっとあってもいいのではないかと思う。講師を呼ぶこともあるが、市の意図が伝わるようにしてもらえればと思う。

(佐々木安浩委員) 全部やらなければならないとは思いますが、特にもこれをやるんだという他との違いをだせるといいのではないか。まずは仕事だと思う。企業誘致と地場産業の成長を促進すれば所得が増加し、家庭にも反映されていく。ウェイト・パワーをどこにもってくるかということだと思う。

(漆沢俊明委員) p12の粗付加価値額の語句説明は修正が必要(原価償却費を付加価値の総額→減価償却費と付加価値の総額)。新規就農者は専門にこだわるものではないか。

(事務局) 新規就農者は専門にこだわるものではない。

(漆沢委員) 最近になって、日本から中国に行き戻ってきた企業が多い。そういったところを狙ってみるのもいいのではないか。企業を人ごと持つてくることもできるだろう。一人あたりの生産額を意識した取り組みが必要だと思う。

インバウンドの関係は賛成である。東北にはインバウンドの 0.9 パーセントしか来ていない。ゴールデンルートからひとをつれてくるためのルート策定が必要。また賛否はあるかもしれないが、台湾のほかにも、イスラムの方々を呼び込むためのハラール対応のモデルケースをつくるの面白いと思う。また、当業界では東北さくら街道といったキャンペーンで集客しているが、最近では東北酒蔵街道として、台湾で PR 活動も行っている。

P24 の木材生産量についてだが、林業は現在いい状況にある。KPI については、域内からの生産は現状でもっといい数字なのではないか。

先ほどは大迫の地価の話挙げたが、将来を考えたとき同じ過ちはしてはいけないだろう。地価の安いところに人は集まる傾向がある。住宅も北上で地価があがり、花巻に流れきていた。今はまた戻っているが、農地を宅地に変えるなどの方法でまた呼び込めるのではないか。医療に関しては総合病院だけでなく、医療モールのようなもの含めて検討すれば楽にできると思う。

(谷藤和彦委員) 結婚してからも、子供を産み育てることが困難な状況がある。育児に対しての職場の意識の変化。取組としてイクメン・イクボスが上がっていたが、そういった部分を厚くしていかないといけない。

(菊池文彦委員) 人口ビジョン案で計算された数字がこの総合戦略にどう生かされているかが見えない。現在はビジョンと総合戦略が別物のように感じる。地域のどこに力点をいれて活性化するかなど、総合戦略からどう発展させるかが課題だと思う。

(藤沼弘文委員) 花巻温泉には、外国人観光客が来ても街中にはこない。免税店が市内にないのが原因だろう。観光協会と協力しながら免税店を増やす試みもいいのではないか。

(中村良則座長) 人口ビジョンにしても総合戦略にしても、これから具体化するときに、いろいろな方と連携してプロセスを踏んでほしい。今回の有識者会議には女性がいなかった。女性がいればもっと違う意見がでると思う。ワークショップや市民説明会から補充し、まとめてもらえればと思う。

#### 【閉会】

(伊藤課長) (今後の予定を説明のうえ、本会議やこれからの説明の場で頂いた意見を踏まえて、今月末の第4回有識者会議で改めて案を示すこと説明して閉会。)